

後期：現代聖書学の諸問題

オリエンテーション

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 創造論 | |
| 2. 一神教 | 10/19 |
| 3. 契約思想 | 10/26 |
| 4. 神殿神学・知恵文学 | 11/2 |
| 5. 預言 | 11/9 |
| 6. 研究発表：侯 | 11/16 |
| 7. 研究発表：張 | 11/30 |
| 8. 研究発表：齋藤 or 南 | 12/7 |
| 9. 研究発表：齋藤 or 南 | 12/14 |
| 10. 研究発表：金、岡田 | 12/21 |
| (11. 研究発表：山下 | 1/4) |
| 12. 終末論・史的イエス | 1/11 |
| 13. イエスの譬え | 1/18 |
| 14. 初期キリスト教と女性 | 1/25 |
| 15. パウロと政治神学 → 火曜日の「聖書演習」へ | |

<前回>創造論**(1) 古代オリエント宗教史の文脈**

1. 宇宙論的タイプの宗教 → 聖書の世界の背後にある古代オリエントの宗教世界。
星神信仰、占星術
3. 創造神話の系譜、古代メソポタミア神話（起源神話）
都市（中央）と農村（周辺）の対立構造 → 構造主義的神話研究
4. 伝統的な世界観の主要な類型の一つ

(2) 二つの創造物語

- 5' 資料仮説（PとJ）に基づく聖書学的説明。しかし、これは思想的説明ではない。
5. プラトニズムの枠組み：フィロン、アウグスティヌス
アイデアの創造と物質世界の創造
6. 第1創造物語：人間の固有性・独自性
定型句：「神はAあれと言われた。するとそのようになった。神はAを見て良しとされた」 → 創造の善性（有意味性）、「創造（言葉・行為）→存在」
8. 被造物としての世界→世界の善性＝合理性
9. 人間存在の意味：神の像（imago Dei） → 特殊な使命（支配？）・人間の固有性
10. 第2創造物語：関係存在としての人間 → 知恵・耕す（科学技術）
パートナーとの関わりにおける人間（人間の社会性）
他の生命体との同質性・連帯性

(3) エコ・フェミニズムと創造論

11. 聖書の創造物語は、人間中心主義、あるいは男性中心主義か？

12. 自然との関わりにおける人間理解の二つのモデル。人間中心主義的な読解は根拠がない。
 14. 「肋骨は連帯と平等を意味している」(P. トリブル「イヴとアダム——創世記2-3章再読」)

2. 一神教

<問題>

- 1) 一神教とは何か。宗教類型論としての一神教
- 2) 「一神教」という言語使用について。
 - ・一神教と多神教は17世紀に英語になった。(Oxford English Dictionary)

Henry More (1614-1687)による使用が初出。

An Explanation of the Grand Mystery of Godliness; or a True and Faithful

Representation of the Everlasting Gospel of our Lord and Saviour Jesus Christ, 1660.

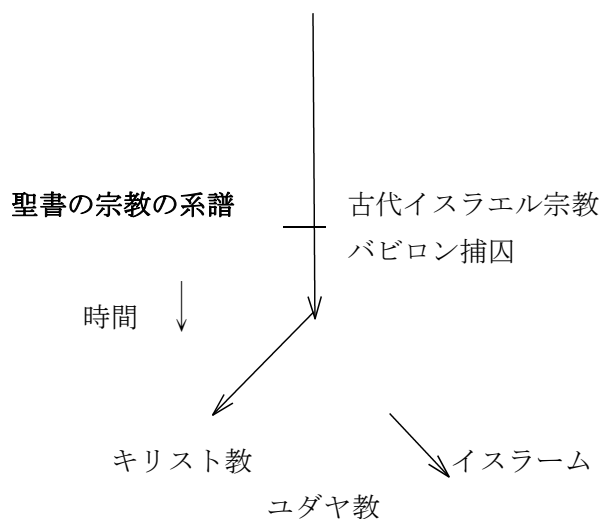
- ・宗教という上位概念(類)に属する諸類型。
 - この言語使用の背後にある問題意識
- ・henotheism (worshipping a single god while accepting the existence or possible existence of other deities)
- monolatry (the recognition of the existence of many gods, but with the consistent worship of only one deity)
- 3) 一神教という視点から見た古代イスラエル宗教史
- 4). 一神教という概念をめぐる論争史、「一神教 対 多神教」
 - ・学的
 - ・政治的

(1) 一神教の宗教史

一神教の位置：神の信仰の多様な形態の一つ(宗教はさらに広い)

唯一神教(絶対的一神教、排他的的一神教) / 拝一神教 / 多神教
 イスラーム、ユダヤ教、古代イスラエル宗教、キリスト教

1. 古代オリエント宗教史(エジプト、メソポタミア)



2. 聖書：神話時代(天地創造からノア) → 族長時代(アブラハムから出エジプト)

→歴史時代1（12部族連合から王国形成）→歴史時代2（王国崩壊以降）

前15世紀以前：族長時代（アブラハムからヨセフ）

前13世紀頃：出エジプト（モーセ）

前13世紀末：カナン定着（ヨシュアから12部族連合）

前1000年頃：王制導入からダビデ＝ソロモン王朝

（2）古代イスラエル民族の宗教

3. 神話時代から族長時代：「イスラエル民族」という理念の成立以前。

後にイスラエルを構成することになる諸部族の核が徐々に形成され、次第にカナンへ移動。相互に分離した諸部族と部族宗教（部族神・守護神）。古代オリエントの諸民族と類似の宗教文化を保有（?）。移動式聖所（幕屋・箱）。星神信仰（山に顕現する）

「14:12 ああ、お前は天から落ちた／明けの明星、曙の子よ。お前は地に投げ落とされた／もろもろの国を倒した者よ。14:13 かつて、お前は心に思った。「わたしは天に上り／王座を神の星よりも高く据え／神々の集う北の果ての山に座し 14:14 雲の頂に登って／いと高き者のようになろう」と。14:15 しかし、お前は陰府に落とされた／墓穴の底に。」（イザヤ）

4. 12部族連合時代：自立的な諸部族の連合体→「イスラエル民族」という理念の成立。

士師時代、独立した地方聖所（シケム、シロ、ベテル、エルサレム）と祭儀を保有。

5. 「26:5 あなたはあなたの神、主の前で次のように告白しなさい。「わたしの先祖は、滅びゆく一アラム人であり、わずかな人を伴ってエジプトに下り、そこに寄留しました。しかしそこで、強くて数の多い、大いなる国民になりました。6 エジプト人はこのわたしたちを虐げ、苦しめ、重労働を課しました。7 わたしたちが先祖の神、主に助けを求めると、主はわたしたちの声を聞き、わたしたちの受けた苦しみと労苦と虐げを御覧になり、8 力ある御手と御腕を伸ばし、大いなる恐るべきこととするしと奇跡をもってわたしたちをエジプトから導き出し、9 この所に導き入れて乳と蜜の流れるこの土地を与えられました。10 わたしは、主が与えられた地の実りの初物を、今、ここに持って参りました。」（申命記、クライネ・クレドー）

6. 拝一神教としての古代イスラエル宗教

古代イスラエルの宗教は、他民族・他部族がそれぞれの神々を信じていることを前提にして、自らの神（ヤハウエ）への信仰を語っていた。

拝一神教：多神教的宗教文化を背景に、そのうちの特定の神への信仰を告白する宗教。

7. 王国形成と宗教の中央集権化（エルサレム神殿・神殿神学）＝一神教傾向の強化

<モーセの十戒>（モーセ的一神教・出エジプト記）→後の唯一神教理念の原型となる。

20:1 神はこれらすべての言葉を告げられた。

2 「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。3 あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。

4 あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。5 あなたはそれらに向かってひ

れ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、6 わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。

- 7 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおかない。
- 8 安息日を心に留め、これを聖別せよ。
- 9 六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、
- 10 七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。
- 11 六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。
- 12 あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。
- 13 殺してはならない。
- 14 姦淫してはならない。
- 15 盗んではならない。
- 16 隣人に関して偽証してはならない。
- 17 隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

(3) 一神教と多神教

8. 拝一神教（諸集団の統合原理）→唯一神教（やや人為的な面が強い）

9. 一神教と多神教とは連続している。

一神教と多神教、あるいは宗教（一般概念としての）は、近代以降の成立。

10. 多神教も拝一神教的であり得る。あるいは、その方が自然か？

多神教の最高神は、しばしば一神教的な帰依を要求する（ジャン・ボテロ『最古の宗教——古代メソポタミア』）。日本の神道の場合、神社と氏子の関係。

11. 宇宙・世界観（理論的観念的な包括性）と信仰（個別的で具体的・限定的）

12. 一神教と多神教、あるいは宗教（一般概念としての）は、近代以降の成立。

<ヤハウエと神々>

「今、わたしは知った／彼らがイスラエルに向かって／高慢にふるまったときにも／主はすべての神々にまさって偉大であったことを。」（出エジプト 18.11）、「あなたは彼らおよび彼らの神々と契約を結んではならない。」（出エジプト 23.32）、「神は神聖な会議の中に立ち／神々の間で裁きを行われる。」（詩 82.1）、「かつて、お前は心に思った。「わたしは天に上り／王座を神の星よりも高く据え／神々の集う北の果ての山に座し」（イザヤ 14.13）

(4) ユダヤ教と唯一神教

13. 古代イスラエルの歴史において、王国の分裂からバビロン捕囚（AD.597/587/583）へ至る過程は、民族滅亡のプロセスであった。古代イスラエル宗教は、この歴史的現実に対して、それを神に対する民族の背き・反逆と、民族に対する神の罰として解釈し、その上で、民族の再生（神に帰ることによって民族を再建する）を展望しようとした。

これは、古代イスラエルの宗教の純化という仕方で行われ、ここに、ユダヤ教は成立する。ユダヤ教的な唯一神教。バビロン捕囚から帰還した者たちを中心に宗教と民族の再建を試みる。

ネヘミヤ・エズラの改革、宗教改革

14. ヤハウエの唯一性の主張

<イザヤ書>：神の唯一的な普遍性

43:10 わたしの証人はあなたたち／わたしが選んだわたしの僕だ、と主は言われる。あなたたちはわたしを知り、信じ／理解するであろう／わたしこそ主、わたしの前に神は造られず／わたしの後にも存在しないことを。11 わたし、わたしが主である。わたしのほかに救い主はない。12 わたしはあらかじめ告げ、そして救いを与え／あなたたちに、ほかに神はないことを知らせた。あなたたちがわたしの証人である、と／主は言われる。わたしは神 13 今より後も、わたしこそ主。わたしの手から救い出せる者はない。わたしが事を起こせば、誰が元に戻しえようか。

（5）一神教は排他的か？

15. キリスト教においても、異教は単に無価値ではなく、それ自体の存在意味を認められるとも言える。

<マタイ福音書>：イエス誕生についての多神教に証言

2:1 イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、2 言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」3 これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。4 王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。5 彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。6 『ユダの地、ベツレヘムよ、／お前はユダの指導者たちの中で／決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、／わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」7 そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。8 そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。9 彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。10 学者たちはその星を見て喜びにあふれた。11 家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。12 ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

16. キリスト教：

- ・ 最初期（キリスト教以前）：ユダヤ教イエス派、ユダヤ教的唯一神教
- ・ 初期キリスト教（キリスト教の形成期）：ヤハウエとイエス、そして聖霊
→ 三位一体
- ・ 古代キリスト教会：天使、殉教者、聖人、マリアなどの仲介的存在者。
→ 多神教的？

<参考文献>

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. マルティン・ノート『イスラエル史』日本基督教団出版局。
3. 石田友雄『ユダヤ教史』山川出版社。
4. 市川裕『ユダヤ教の歴史』山川出版社。
5. 山我哲雄『聖書時代史 旧約編』岩波現代文庫。
6. 佐藤研『聖書時代史 新約編』岩波現代文庫。
7. 荒井章三・森田雄三郎『ユダヤ思想』大阪書籍。
8. 荒井章三『ユダヤ教の誕生』講談社選書メチエ。
9. B.ラング編『唯一なる神——聖書における唯一神教の誕生』新教出版社。
10. トレルチ『ルネサンスと宗教改革』岩波新書。
11. 水垣渉「ヘブライズム・ヘレニズム・キリスト教」（武藤一雄・平石善司編『キリスト教を学ぶひとのために』世界思想社、24-34頁）